

**被爆 75周年原水爆禁止世界大会にあたり  
原爆の図丸木美術館は、コロナ禍のいま  
核兵器のない社会に向けた確実な一歩を  
ともに進むことを確認したいと思います。**

広島・長崎への原爆の投下から 75 年に歳月が流れました。核兵器禁止条約の進展という形で、核兵器の廃絶に向けた世界中の市民の声は広がりつつあります。それが私たちの希望であり、核兵器のない社会の実現は私たちが獲得しなければならない未来でもあります。しかし、残念ながら、核保有国だけでなく、その動きを先頭で促進すべき日本政府まで、その流れに目をそむけたままです。日本政府は核保有国と核兵器廃止に向けた世界の動きをつなぐと言いながら、具体的に何かが行われたという報道はありません。今年に入って、世界中が新型コロナウイルス感染の渦に巻き込まれ、7月29日の段階で656,093人の人が命を奪われています。いま、必要なのは、核兵器の開発や維持ではないことは、ますます明らかになりつつあります。核保有国や日本政府は、その愚かさに終止符を打たなければなりません。世界中の人々の声を拒み続けることを、もう止めるときです。丸木俊と位里の原爆の図は、人の目の高さで描かれています。原爆を落とした飛行機の高さからではありません。その連作には原爆で傷つき殺された多くの人が描かれています。そこに描かれているのは、いのち。そこから聞こえてくる、いのちの声に耳を傾けたいと思います。そして、世界中の一人でも多くの人とともに、そのいのちの呼びかけに耳を傾けたいと祈っています。

以下、丸木美術館の近況です。コロナ禍のなかで丸木美術館も休館を余儀なくされ入館料収入などが途絶えたので、ご寄付を呼びかけさせていただきました。すると、私たち自身の予想を超える多くの方からの寄付が集まりました。原爆の図や丸木美術館が持つ意味を、とても多くの方がそれぞれのかたちで感じていただいたことを実感しています。それはとてもうれしいことでしたが、私たちの責任の重さもまた感じさせるものでした。開館50年を契機に呼びかけた、「丸木美術館を原爆の図の保存にふさわしい建物にしていくための寄付」も3年を経て、1億円を超えました。建物の改修計画も具体化しつつあります。コロナ禍の影響で、今年の春に予定していた改修計画の発表の延期を余儀なくされたのですが、必要な金額は3億円くらいになりそうです。来春には改修計画の概要をお伝えできるようにしたいと考えています。

公益財団法人原爆の図丸木美術館 鶴田雅英(代表理事)